

開催概要

日時 | 2023年2月16日（木）16時00分～17時15分

主催 | 公益財団法人仙台市産業振興事業団
（仙台フィンランド健康福祉センター事業創成国際館）
仙台フィンランド健康福祉センター推進協議会
（仙台市経済局産業政策部産業振興課内）

参加者 | 当日視聴者 96名
録画再生 189 回（申込者に期間限定公開）

【講師】

ヒルトウネン くみこ
ヒルトウネン 久美子 氏
KHジャパンマネージメント株式会社
（KH Japan Management Oy）
代表



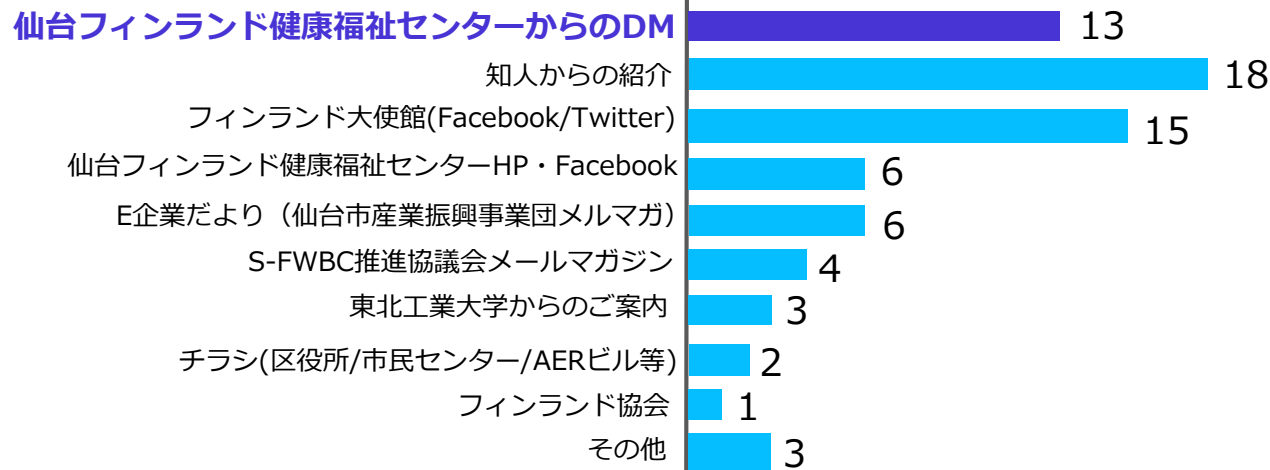
講話内容

北欧諸国の中でも最も早いスピードで高齢化が進んでいるフィンランド。できるだけ最期までその人らしく生き続けることができるよう個々の生き方を尊重した生活支援、高齢者と介護職者双方のウェルビーイングのためのテクノロジー活用や外部との連携など、フィンランドの高齢者福祉のあり方について、フィンランドの教育・福祉のスペシャリストであるヒルトウネン久美子氏を講師にお迎えし、最新の現地事例を交えてお話しをいただきました。

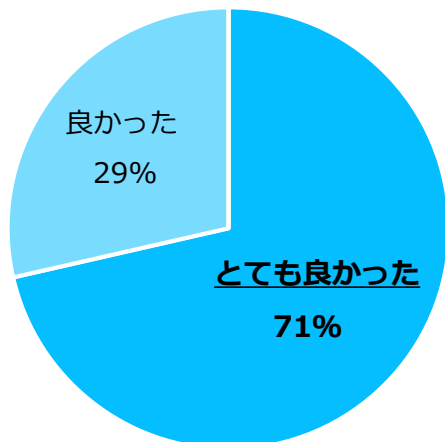
- フィンランドで2番目に人口の多い都市エスポ。そこにヒルトウネン久美子氏の人生観を変えたという認知症高齢者施設のヴィラタピオラがある。こちらの施設を例におおよそのスケジュールをはじめ、利用者の暮らしの様子を中心に「一人一人を知る」「本当に大切なこと」「個の尊重」とは何か。また利用者だけではなく、介護職員のウェルビーイング、夏季休暇4週間取得や職員同士の研修会、ICT機器を活用した職員の感触や反応等、産学官連携の取り組みも交えて幅広く実例とともに「今と未来、フィンランドの高齢者福祉」についてご紹介いただきました。

【アンケート結果 ※回答数63名】

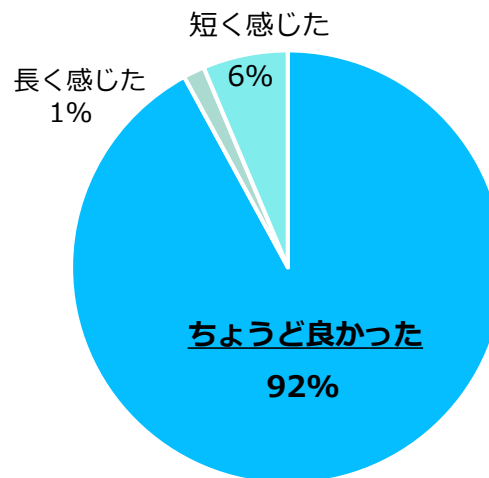
1. セミナーを知ったきっかけ（複数回答）



2. セミナーはいかがでしたか。



3. セミナーの開催時間はいかがでしたか。



4. 本セミナーの感想等（自由記入） No.1

※原文のまま掲載しています。

- 自己決定権、そしてそれらが尊重される社会であることがフィンランドと日本の大きな違いだと思いました。日本でももっと柔軟な対応できる環境が作れればと思います。貴重なお話をありがとうございました。
- 実際にその国にいる方に話を聞く機会があるのはよかったです。
- 情報が豊富で、フィンランドの高齢者福祉の哲学や状況がよくわかった
- フィンランドの様子が伝わってきてよく理解できました。高齢者だけでなく、一般社会においても日本ではもっと自己決定権を尊重し、他者への寛容性を持つ必要があると思いました。
- とても分かりやすく参考になりました。ありがとうございました。
- 海外の視点が日本で活かせるか
- この度は貴重な機会ありがとうございました。フィンランドの福祉について理解を深められ嬉しく思います。
- 非常に分かりやすく参考になりました。
- 自己決定のお話について、考え方については理解しているが中々実際に支援するのは難しい。自己決定の大切さについて、改めて考えさせられた。
- ひとつの高齢者施設の紹介でまとまっていてよかった。わかりやすく、たいへん刺激となった。
- フィンランドの高齢者介護の実態がよく分かった。特に日本との違いが印象的であった。
- フィンランドならではの価値観や制度について何う事ができ大変ためになりました。
- 7年前にフィンランドの病院や福祉施設を見学しましたが、最新の状況を見ることができ勉強になりました。
- 普段あまり知ることのできないフィンランドの介護状況を知ることができた。もう少しIT関連の紹介もしてもらえるとよかった。
- 日本の制度との違いは何なのかももう少し説明して欲しかった。特に、個人負担や介護人材の不足などをどのように補おうとしているのか？日本の介護制度のどこを直せば良いのか等 日本で実施する場合、殆どの介護事業者ではご説明のサービスは出来ないのではないかと思います。福祉国家ならではの政策のすごさを感じました。
- フィンランドの状況がリアルに理解できた
- 個人の意志を大切にするフィンランドの高齢者施設はとてもいいなあと思います。日本でも同様な施設ができればいいなあ。
- 施設に入居して諦めるではなく、自分らしく暮らし続けることが大切さだということを改めて感じる事ができた。目指すべき方向性も再認識できた。
- フィンランドの高齢者施設の実情が丁寧に説明されたので、よく理解できた。一方、フィンランドの高齢者施設全体についての状況や、今後の方向性等も 話題として提供してほしかった

4. 本セミナーの感想等（自由記入） No.2

※原文のまま掲載しています。

- 日本で同じことを今すぐ実現しようとするのは困難なのかと思いますが、高齢者福祉のあるべき姿の示唆に富む内容でした。貴重で有益なご講演を聴講でき、感謝しています。ありがとうございました。
- 20年前に医療福祉建築協会の研修旅行で北欧を訪れているが、その際はフィンランドの施設は訪ねられなかった。しかし基本的な考え方、価値観は他の北欧の国々と同じだと感じたし、当時より進んで更にダイナスティが向上していると思った。
- 1か所の施設に絞って深くお話を伺えたのがよかったですし、お写真も素晴らしかったです。質問をさせて頂きましたが、お答えいただけのも大きかったです（コロナ禍の家族等面会について質問をさせて頂きました。ありがとうございました）
- フィンランドの事情がよくわかったし、考え方の参考になるお話だったので嬉しかった。
- リノベーションに特化した建築企画の仕事をしています。日本では、自分が将来過ごしたいと思えるような高齢者施設が多くないように感じますので、それを変えるために企画を練りたいと思い視聴しました。ハード面だけでなくソフト面のハードルも多く存在しますが、ご紹介いただいたvilla tapiolaで過ごす高齢者の表情を見ると、とても幸せそうでしたので、日本でもvilla tapiolaのような施設を実現させたいと感じました。
- 以前より聞いていた日本と異なる介護の状況が、よくわかった。スタッフの不足に関しては、日本と表面的には同じだが、本質的な部分で異なるのではないか？また、在宅での時間が長く、重度の入居が多くなるのは当然と思うが、実際解決の法方はあるのだろうか？
- 講演の中で、実際の介護施設の中の写真や動画を見せていただいて具体的にフィンランドの高齢者福祉の様子を想像することが出来ました。施設に暮らす方の人生の一端や介護者の介護における姿勢といった詳細まで迫った貴重な様子をこのように無料で、オンラインで、一般に公開して下さったことに感謝致します。私は老いの在り方について研究しているのですが、国や文化的な差異のみならずひとりひとりの個人が考える老い方の理想について考えさせられました。講演の中でご紹介下さった睡眠時間の差異、食生活の差異、運動の差異などの尊重から、個人が考える「健康の在り方」も尊重される介護が実現出来るというのは素晴らしいことだと考えました。ある規定の量を満たすことで規範的な健康を追求するよりも、ひとりひとりが求める健康を尊重し、時間の使い方を委ねることは個人の尊厳と自由を守る上で非常に大切だと思います。ヒルトウネンさんのお話はとても聞きやすく、分かりやすかったです。貴重なお話をありがとうございました。
- フィンランドの高齢者施設はとても良いなと思いました。数年前に実母を通常デイサービス、たまにショートステイを利用した経験があります。自分らしく生きるということはとても大事だと思います。日本の施設は人手不足からケアが行き届かない場面を見ました。考えさせられました。

4. 本セミナーの感想等（自由記入） No.3

※原文のまま掲載しています。

- 北欧の福祉には20年以上前から関心を持っており、フィンランドの現在の取り組みや課題がリアルにわかり、とても参考になりました。講師の方のお話も大変上手で聴きやすかったです。貴重なお時間をありがとうございました。
- 〈職員が共に食事をとる姿〉以前は当事業所内でも見られた姿で、懐かしく感じる部分がありました。また、【私の介護プラン】の主語が●私は普通…で始まることに、思わず笑みがこぼれてしまいました。私自身の介護プランもこうあってくれる世の中になっていたら嬉しいと考えました。
- さまざまな社会問題を抱え、同時に身動きができず閉塞感を抱えている現代日本において、ある部分では対極にあるフィンランドの状況を知ることができたのは、大変貴重であった。今回、介護施設について、大変具体的で詳細なお話を伺ったが、背景にある教育、企業、福祉など、すべてが連関しつつ、1つの介護のあり方とその方向性が表出しているのだと感じた。そのキーワードとして自己決定権について言及されていたのは、大変重要だと思った。日本社会では、多少変化の兆しを見出すことができるとはいえ、未だに企業、家族、国家など、幼少期から老年に至るまで個人は集団に寄与することが幸せであることが強調され、自己とはそうした集団のために統制すべきものというのが、価値観の基本になっているように思う。自分は何を幸せと考えるのか、という自問自答は、日本では習慣づけられておらず、行政が想定した、あるいは何となく社会の中で共有されている「幸せモデル」から踏み出し、多様な自己を表出、実現すれば、未だに「わがまま」、「自己責任」と言われてしまう。今回のセミナーのように、日本とは異なるフィンランドの事例が広く人々に知られることになれば、日本社会も変化の方向に進む可能性があるのではないかと思った。大変優れたプレゼンテーションと貴重な企画を頂きまして、ありがとうございました。
- コロナ禍において、施設として、"会えないことにならないように"どうするかを考えた、というお話や、監視カメラが重要視されていないお話など、普通にすることをとても大事にしていることにハッとさせられ、素敵だなあと思いました。そんな貴重な話が聞けて良かったです。
- 日本の同じような施設との違いについて知ることができた。
- 施設に移り住んだとしても「自分を生き続けること」、同じ場所でともに暮らすスタッフに支えられて自分らしい時間の過ごし方を続けること、それを可能にする生活の条件について多くの参考になる情報をありがとうございました。フィンランドと日本の現状のギャップを考えると厳しさが身に沁みますが、人は一人一人違うという前提に立ち「その方の望むことが一番大切」と言い切れない身の回りの施設環境の状況を再認識しながら、現場のスタッフが対話する時間と行動する勇気を持てるように、現場の人を支える信頼の関係づくりとともに、外に広がるネットワークを構築したいと願いました。建築士として施設環境づくりに関わりながらも、十分な成果を得ることもなく、お世話になる年齢になってしまいました。何歳になろうとも人としての生活の基本、願いは変わらないです。地域社会に根ざして自然に暮らせる居場所づくりが少しずつでも進んで、自宅で暮らし続ける以外にも高齢期に暮らし方の選択の幅が広がることに僅かながらも関わりたいと思います。どの国でも、介護人材不足の根っこには、低賃金の問題がありますね。テクノロジーなどの手段を目的化することなく、人を支えるブレない姿勢と現状の課題が分かりやすく伝わりました。現場スタッフの日常生活の維持への配慮、日本の現状のギャップが苦しいです。チェック項目を増殖しながら現場の負担を増やす報告書の話、他人事じゃないですね。記入負担が増えるだけでなく、伝えたいことが伝わりにくくなる弊害を感じます。

4. 本セミナーの感想等（自由記入） No.4

※原文のまま掲載しています。

- 民生児童委員なので、地域の高齢者の見守りや対処について良い事例を知ることができたから。また身内の介護および施設入居に関する経験から、食事がビュッフェ方式で、時間も量も個人個人に合わせて提供されるのは素晴らしいと思い、多くの方に知ってもらい実施する施設が増えてほしいと思った。
- フィンランドの高齢化社会の現状や個を大切にするための様々な工夫を知ることができよかった
- ヒルトゥネンさんのレポートがとても分かりやすかったです。
- フィンランドの高齢者ケアの原理原則（何を目標に何を優先して課題解決しているか）から日本も学ぶべきことが多いと感じた。
- ヒルトゥネン久美子さんのお話がたくさんの写真と共にとってもわかりやすかったです。
- 高齢社会を迎えている日本においても同様の課題があり、そのなかで、制度だけでなく、人としてできることを考えられる会でした。ありがとうございました。
- 録画視聴で空いた時間に見ることができました。またフィンランドの介護の実態を知ることができて、たいへん勉強になりました。
- 日本ではとても実現できないとされている施設での高齢者の自由がしっかり保障されているフィンランドの実績を、日本の固定観念を解き放つ時の根拠にできると思いました。
- フィンランドの施設の現状がよく把握できました。現在、認知症の父と共に暮らしていますが、散歩に誘えば拒否される、（元々お米や甘い物が好きな質ではありましたが）糖尿病にも関わらず、糖質や糖分への執着が顕著になり、それと比例して野菜を拒絶するようになる、（これまた元々好きだった）テレビへの執着が増し、およそ興味の無さそうな番組でも見続け、歯磨きやトイレを促してもなかなか席を立ち上がらない…といった現状で良いのだろうかとずっと感じてきましたが、Villa Tapiolaのお年寄り達が個人を尊重されて生活している姿に近いのかな、と少し安心しました。日本では、なるべく自宅で家族が介護というのが国の方針になっていますが、それだと、外出したがないタイプの高齢者にとって、家族以外の人間との関りがかなり制限されてしまうのではないかと疑問を感じてきました。そうした意味では、「年を取り過ぎる前に施設で暮らし始める」という考え方は素敵だと感じました。寝たきりの状態になってから施設に入るのでは、寿命を延ばすことがメインになってしまいます。高齢者が今までの生活を続けられて、職員だけでなく、他の入居者や家族との関わりを持てる環境が配慮されているのは、本当に素晴らしいと感じました。最後になりましたが、ヒルトゥネンさんの話し方はとても耳心地が良く、分かりやすい説明でした。ありがとうございました。
- フィンランドの介護・福祉の現状について知ることが出来、良かったです。
- 素敵な人生を生きれるフィンランドが羨ましいとおもった。認知如何にかかわらず、送りたい人生の高齢期の姿であった。財政的な問題はどうか解決しているのか？知りたかった。
- 大変勉強になりました。
- 職員と入所者が一緒に食事をとることについては驚きでした。日本の施設も原則そうあるべきだと思いました。
- フィンランドの福祉の情報を得られたから
- フィンランドの実際の映像を交えてのお話だったので、かなりフィンランドの実態が分かりました。利用者さんと一緒にご飯を食べているのがとても微笑ましいです。ありがとうございました。

4. 本セミナーの感想等（自由記入） No.5

※原文のまま掲載しています。

- ヒルトウネンさんのお話がとても丁寧で分かりやすく、実際に自分もフィンランドの高齢者福祉の現場にいたかのような臨場感を感じながら、フィンランドの高齢者福祉の現状について知ることができました。貴重なお話を誠にありがとうございました。お話から、フィンランドを始めとした北欧諸国に根付く、人を大切に想う精神、自由、自立、個を尊重する価値観を感じ、改めてフィンランドの社会に感銘を受けました。このような貴重なお話を無料でお聞きすることができ、見返すことが可能な録画までも配信していただけるという点が大変ありがたいと感じました。
- 建築設計士ですがフィンランドの施設のあり方が大変勉強になりました
- 紹介いただいた施設の「考え方・視点」が勉強になりました。
- 福祉大国と言われるフィンランドがどれだけ先進的なことをされているのか大変興味深く視聴させて頂きました。世界一幸せな国と言われているものの、抱えている課題は日本と共通するところもありますが、そもそも「人の生き方」に関する考え方が大きく違うということを実感しました。一方で人材不足やケアのDX化を進めて行かないといけない事情もあるということ。しかし、根本の部分で当事業所でも学んでいきたい（私のケアプランなど）内容が満載のセミナーでした。機会があればぜひ現地に行って学ぶ機会もあったら嬉しく思います。
- フィンランドの介護施設の現状を知ることができ、率直にとっても良いなあと思ってみさせていただきました。施設でも自宅にいるように、本人のペースであったり、本人が好きなことを自由にできる環境での生活。決してマイナスなイメージはなく、むしろ温かく安心できる日常があると感じました。また、フィンランドの風土もまたきっと素敵なんだろうなあと思い、いつかぜひ行ってみたい国のひとつです。素敵で貴重なお話ありがとうございました。
- 以前Villa Tapiolaの比較的近くに住んでいたため、存在は知っていた。日本に住む親類に認知症のものがおり、施設にも興味が出てきた所だったので、大変興味深く拝見しました。フィンランドらしい工夫があり素敵だと思ったし、日本の施設とも交流しているそうなので、自分らしく暮らせる施設が、日本にも広がってくると嬉しいと思います。
- 身の回りだけでの経験則は余程乏しいものと感じます。視野を広げなくてはいけない意欲をいただく事ができました。
- 最新の情報を聞いて良かった。

4. 本セミナーの感想等（自由記入） No.6

※原文のまま掲載しています。

- 施設の動画を拝見することができた。
- 数年前、日本で開催されたキャンプの世界大会に参加しフィンランド人の友人ができ、サウナがきっかけでフィンランドの教育や医療、福祉などに興味を待つようになりました。実際に現地視察できることが一番ですが、予算のこともあるのでオンライン、両国の事情に詳しく、現地在住の方であることがとても分かりやすく、興味を持って参加することができました。私は一人でオンライン参加し、その後、ケアマネをしている主人とも一緒に何度も拝見しました。とても個人を尊重されており素晴らしいと思います。日本でも人手不足が深刻ですが、施設側としてどれだけ個々に対応していくのか苦労するところです。どんな工夫ができるのかなども益々関心がわいてきました。
- ヒルトウネン 久美子さんがおきれいで話し方も聞きやすく、内容に入りやすかったです。
- フィンランドの高齢者の介護施設について知る機会が今までなかったので新鮮だった。写真や動画が多くて分かりやすかった。
- 施設内の動画や生のインタビューが掲載されており、フィンランドの介護施設の実態がわかりやすかったため。
- フィンランドが大好きで一度行っています。世界一幸福な国の介護事情が知りたくて受講しました。父が認知症と診断されて3年。家族で施設を検討する話し合いを何度かしています。実際に何軒か見学にも行きました。しかし、父はショートステイ先から何度も何度も自宅へ帰りたいという電話をしてくれます。無趣味な父は暇で暇ではないようです。フィンランドの施設は、利用者が施設に合わせるのではなく、施設が利用者の色に染まり自宅となるので、帰りたいという感情を持たれないのでしょうか。利用者の家族という立場からは、今回紹介して下さった施設が日本にもあれば是非入りたいと思います。映画「ケアニン」を見た時にも同じ気持ちになりました。父が好きな釣りを毎日できる海辺の施設ができないかなと夢見る毎日です。貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

4. 今後セミナーで取り上げてほしいテーマ等ありましたらお聞かせください（自由記入） No.1

※原文のまま掲載しています。

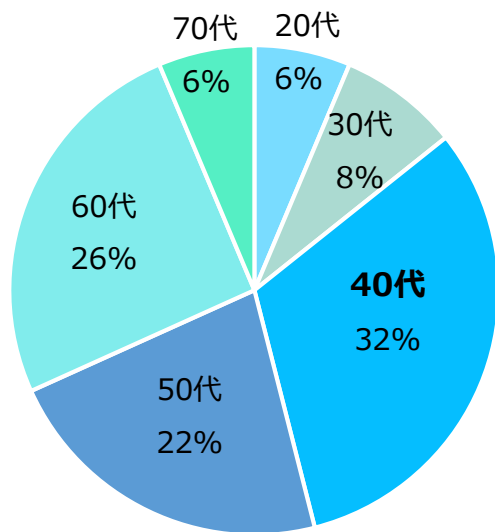
- フィンランドの食文化について。
- 福祉施設のIT機器の導入について
- 高齢者施設に入っていない、普通のフィンランドのシニアのくらしがもっとしりたい。
- これからの介護施設のありかた
- フィンランドでのITシステム活用の詳しい情報を希望いたします。
- 福祉と医療の接点あたりにも興味があります。日本ではそのあたりが巧く機能していなのではないかとおもうのですが、フィンランドは如何でしょうか。
- デジタルヘルスケアについてお聞きしたい。
- 今回のように海外での取り組みなどを知れる機会があるとよい。
- 北欧の医療制度、家庭医制度と福祉介護との連携
- 施設ではなく、在宅生活をおくる高齢者の様子や支援の工夫について
- 入居前の在宅での高齢者の暮らしが知りたい。また就労世代の福祉への考え方を聞きたい。
- フィンランドのウェルビーイングについて
- 北欧の住まい、暮らし方について、在宅も含めてまた違う立場の方からのお話を伺ってみたい。
- フィンランドから見た "日本" について。昨今のフィンランドでは日本という国がどんな風に認知されているのか、もっと知りたいです。
- 本日までご紹介いただいた施設において介護士の方が入所者の方と一緒にサウナを利用されているという話をされていました。介護度により利用できる方と利用できない方と分けられるとは思いますが、どのような工夫をすればどの程度の介護度の高齢者まで利用することができるのかを知りたいと思いました。サウナを治療や医療目的に使われることもあるかと思いましたので。
- 食事と健康長寿について
- フィンランドでの看護師の仕事、児童福祉、ネウボラの事など、少子化対策について
- 保育、子育て支援、ネウボラ制度
- ユマニチュードのような、認知症の高齢者との接し方についてのメソッドがフィンランドにもあれば、知りたいです。
- 支援学級の福祉問題や生徒の将来の展望や課題の解決がフィンランドにあれば、教えてほしい
- フィンランドのサウナ健康法 緩和ケア、死生観、医療サービス(薬・薬以外) 生活全般についての日本との違い
- フィンランドの教育における子どものウェルビーイング、フィンランドの子どものウェルビーイングを支える「ポジティブ教育」
- フィンランド施設の建築的な部分も多く取り上げて頂き勉強したいです
- 私はケアマネジャーなので、外国でのケアマネジメントについて現状は日本とどう違うのかお聞きしてみたいです。
- 認知症の家族がいないと、まず日本の認知症施設についての知識もないと思うので、日本の施設の取り組みについても知りたいなと思いました。
- 今回のようなフィンランドの現状を学びたい。
- 幼児教育、移住者への支援、ヘルシンキ図書館のサービス

4. 今後セミナーで取り上げてほしいテーマ等ありましたらお聞かせください（自由記入）No.2

※原文のまま掲載しています。

- フィンランドと日本には似ているところがたくさんありそうなので取り上げてほしい。
- フィンランド×日本の国際結婚などについても。
- フィンランドがテクノロジーをどう利用しているのか、他の現場の状況も知りたいです。
- 認知症患者と離れて暮らす家族ができること
- 介護者のメンタルケア
- 田舎に暮らす一人暮らしの高齢者のコミュニケーション手段

5.参加者の年代



6.参加者の属性

